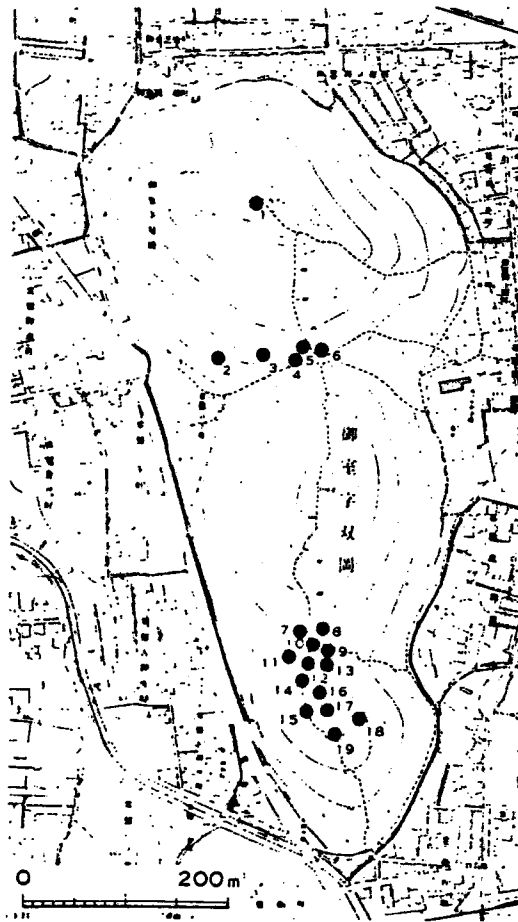


双ヶ丘1号墳発掘調査現地説明会資料

昭和55年12月26日

京都市埋蔵文化財研究所



双ヶ丘古墳群 全布図

現在 名勝双ヶ丘の範囲内では 双基あま^{りの内墳}が確認されており、双ヶ丘百墳群として知られている。そのうち一、丘頂上にある1号墳は、他の百墳に比べ著しく大きな規模を持つもので、単に群集墳の一つとしてとらえてよいものか、疑問である。

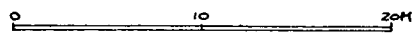
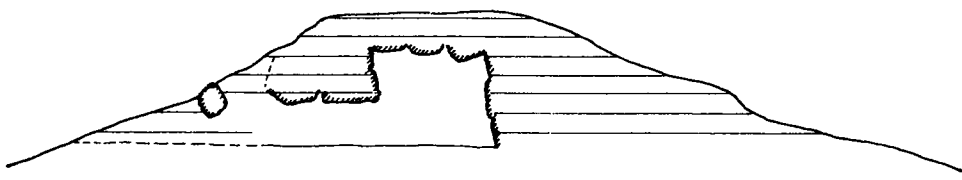
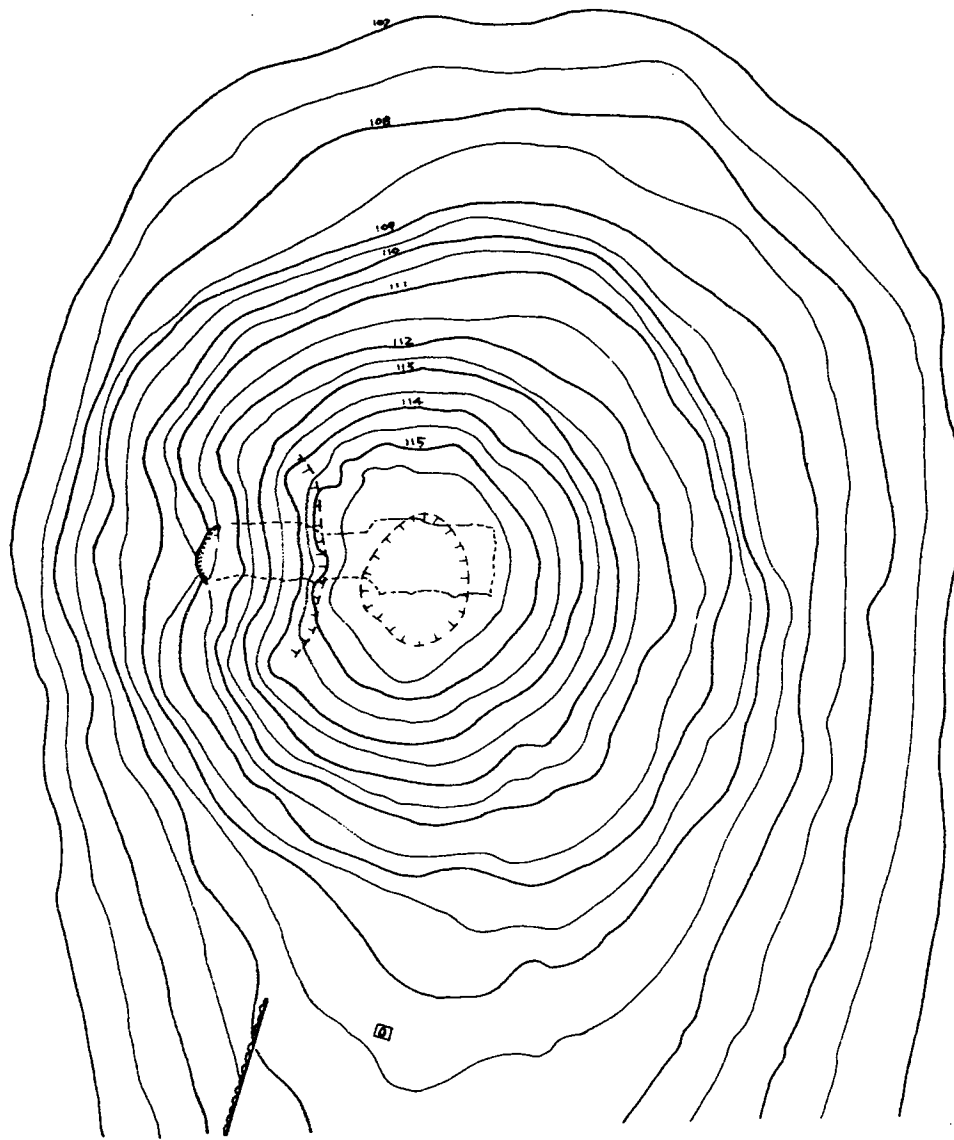
今回、この1号墳の保存整備が計画され、その予備調査として当研究所が発掘調査を行った。調査は昭和55年10月10日から開始した。

玄室の右側壁が中央に崩れ落ちているため発掘は不可能であったが、北側の半分を床面まで掘り下げた。

石室の規模は以下のとおりである。

	長	幅	高
羨道	(2.5m)	2.4m	2.5 ⁵ m
玄室	6.1m	3.6m	5.0m

墳丘の規模は現在トレンチ調査を行ない確認中であるが、少なくとも45mはあるものと思われる。当初の予定では石室の補強を行ない、開口部に門扉をとり付ける予定であったが、石材の風化が著しく、非常に危険な状態であるため、調査終了後石室内部に再び土砂を埋め戻すこととされている。



双丘1号遗址地形图